

平和教育教材



次世代への継承のためにも、教材やカリキュラム開発が重要であると考え、教育者の学びの場づくりを大事にしました。

平和教育指導者養成講座

届けた、うむい（思い）

教育現場を実際に持つ教育者及び関係者が集い、平和教育のネットワーク構築や、平和教育教材開発・カリキュラム開発を座学で2回（合計4日間）、地域（読谷村）の戦跡をめぐるフィールドワークを実施しました。併せて、オンラインにて学びあいの時間も5回開催しました。現在および過去の平和教育次世代ネットワーク教員の交流会も兼ねる機会としました。

座学では、開発教育協会（DEAR）の中村さん、岩岡さんを講師に招き、読谷村のフィールドワークでは、読谷村の中田さん（50～55ページ参照）にご協力を頂きながら、講座を実施しました。

■ 平和教育指導者養成講座（座学）

日 程：第一回目 令和4（2022）年10月9・10日（日・月祝）

第二回目 令和5（2023）年1月14・15日（土・日）

会 場：JICA 沖縄（浦添市）

参加者：学校教員、学芸員、教育関係者、学生

■ 戦跡・フィールドワークを通じた学び（フィールドワーク）

日 程：令和5（2023）年2月25日（土）

場 所：読谷村内、戦跡の場所

■ オンライン学びの会

日 程：7、8、9、10、12月 それぞれ1日、19：00～21：00

平和教育指導者養成講座（座学）内容

○自己紹介、互いを知りあうワーク

○パーム油の参加型教材体験

- ・パーム油の開発問題について、その背景や各立場になって考える
- ・身近な対立について、気持ちや背景を分析する
- ・自分の気持ちやニーズに気づく、認める

○難民ワークショップの体験

- ・難民問題の現状や背景、各立場になって考える

○教材作成のプロセス、仲間づくりを学ぶ

○沖縄の平和教材作成

- ・グループで、学習目標（何を考えてほしいのか）、対象、テーマ、すすめ方

○教材作成の発表と、講評

○参加者同士

（次世代ネットワーク構築）
のための交流会

成果

平和教育
指導者養成講座
参加者

109人

座学、読谷村における戦跡フィールドワーク、
オンライン参加者等の累計

- ・教育関係者、学芸員とのネットワークが形成された
- ・本講座を通じて3つの平和教育教材案が作成された

数字 100%

アンケート結果
本事業を通して平和への理解が高まった
（とても高まった・高まった）

参加者の声

- ・「平和教育」は、沢山の内容（方向性）があることに気づかされました。対馬丸のイカダ体験ワークと体験者の証言がつながっており、参加者皆さんの記憶に残る教材ができたのかなと感じました。小学生は、実際に体験したり、物や写真などで視覚的にとらえる工夫が必要なことも再確認できました。対馬丸のクイズや詩も授業で活用したり掲示物でいかせたり、工夫しだいで取り組みそうです。
- ・平和教育担当でもないのですが、講座が終わる頃には私が平和教育の担当をしたい！と思うくらい2日間の教材づくりの時間が充実しており大変勉強になりました。出前講座でぜひ本校に来ていただきたいです。
- ・何を伝えたいのかを明確にする（形にする）まで時間がかかるのですが、今日の講座で一人ではなく数人でお話するだけでも形が見えてきました。誰かと共有するって大事だなと改めて思いました。

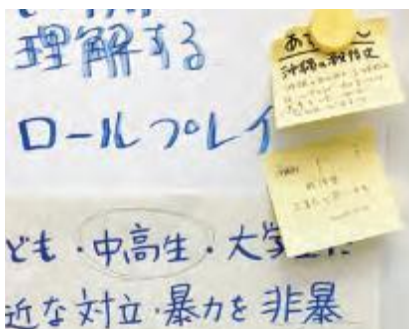
沖縄の指導者養成講座に関わって

指導者養成講座に講師として関わらせていただきました。参加者の開発や平和に関する感度が高く、各課題を自然に自分事として捉えることができるので、問題の構造や背景を深めて、解決に向けて考えていくことができました。参加者の視点や意見、考えから、私たち自身も気づきや学びが多くありました。グループで具体的な学習プログラムを考えることまで、できたので、ぜひ実践につなげてほしいと思います。何より、このような仲間がいることで、お互いに実践共有、経験交流ができることが指導者養成にはとても大切だと思います。

（開発教育協会、中村絵乃、岩岡由季子）

■認定 NPO 法人開発教育協会（DEAR）

公正で持続可能な地球社会の実現を目指し、「知り・考え・行動する」開発教育を推進する NGO。教育関係者を中心に全国に約 600 名の会員がいる。研究や講座、教材開発をしながら、地域や学校での学びの場づくりを支援している。ホームページ参照 <https://www.dear.or.jp/>



教材 1 「対馬丸」

ね ら い：大切さを理解して、沖縄の現状を知る

キーワード：沖縄戦、対馬丸

すすめ方

①導入

・いかだに何人乗れるか？自分だったら？

②フォトランゲージ

③クイズ3問

④体験記

⑤対馬丸記念館の詩を読む

⑥ワーク振り返り

・平和って何？

・平和になるためにできること



📷 いかだに何人乗れるか？を実践している様子

作成した背景

これまでの平和学習で訪れた施設や式典での黙祷（もくとう）など、印象に残っていることは何ですか。

私は、小学校6年生の夏休みに、島尻地区（沖縄本島南部）の小・中・高校生が1週間親元を離れ船で九州へと渡り、各地で様々な体験活動を行うプロジェクト「島尻少年の船」に参加しました。沖縄から鹿児島へ向かう海中、参加者全員で船の看板から海底に沈んでいる対馬丸に向かって黙祷をした体験が今でも印象に残っています。

当時の私と同じ年代の子ども達が疎開船「対馬丸」にどのような想いで乗船し、どのように生き抜いたのか、平和な環境で育った私には考えることのできない壮絶な世界がきっとあったはずです。

戦争体験者が高齢化していく中、戦争を知らない私たちが当時のことを知り、次世代にその想いをつなげていくことも平和を継承していくうえでとても大切であると考え教材作成に至りました。

予備知識

①いかだは、約2メートル四方の広さですがそこに約20人ほどがしがみついた。

②対馬丸は、魚雷攻撃を受けて、わずか10分足らずで沈没した。

③平良啓子さんについて（24ページ～参照）

④小桜の塔（那覇市旭ヶ丘公園）

愛知県のすずしろ子供会が、「沖縄の子ども達のための慰霊塔がないので自分たちの力でぜひつくりたい」と一円募金を始め、愛知県の大きな協力のもと建設資金が集められ、1954年5月5日に建立・除幕された。

- ⑤対馬丸撃沈現場から一番近い十島村悪石島に「対馬丸慰霊碑」が、対馬丸犠牲者が多数漂着した奄美大島宇検村に「対馬丸慰霊之碑」が建立されて、慰霊塔を守り続けている。
- ⑥疎開船「対馬丸」に乗船する前の気持ちや沈没した際の気持ちを共有し自分と照らし合わせる。
- ⑦いかだ体験では、当時の様子をリアルに体感するために、詳細は告げず役割を与えてすすめる。
(例)・乗っている人を蹴落とす役・必死にいかだにつかまる役・体は水面下で手だけをいかだにのせている役。いかだで漂流する様子を役になりきって体験した後、解説を交えて、当時の様子を伝える。(実際のいかだは約2㎡と狭く、暗闇の中サメが泳いでいる。台風接近で海は荒れている。)
- ⑧フォトランゲージでは、写真を見て児童生徒が感じたことを記入したり発表したりする。どんな内容でも否定はせずありのまま感じたことを受け入れる。
- ⑨クイズは、対象学年で伝えたい内容を授業者でチョイスし、解説を交えて当時のことを伝える。
- ⑩体験記では、児童生徒の発達段階を踏まえて、難しい言葉などは、授業者で補足説明を入れる。
- ⑪対馬丸記念館の詩「今を生きているきみへ」を児童生徒が一人一文ずつ読み、感想を共有する。
- ⑫学習した内容を振り返り、皆の夢や希望が叶う平和な世界になるためにできることを話し合う。

執筆者：末吉 明奈（潮平小学校）

作成のプロセスと気づき

教材を作成する過程において、チームで内容の検討や手順を話していく中、実際に体験する活動を取り入れることで小学生でも内容が入りやすいのではないかとの意見が挙がり、導入に「いかだ体験」を取り入れました。真夜中の海に沈没した対馬丸の周辺は、人食いサメが泳いでおり、暗闇の中、いかだに必死にしがみつき漂流する体験活動が今回の教材の入り口となります。もし、漂流しているのが自分だとしたら、どんな気持ちになるだろう。実際の体験者たちはどんな想いで漂着までの間を過ごしたのだろう。

展開での対馬丸に関するクイズや体験談も自分事のように捉えながら参加していくと、最後に紹介する対馬丸記念館の詩も子ども達なりに深く理解し感じてくれるのではないかと考え構成してみました。

その後の展開や変化

対馬丸で犠牲になった尊い命にも沢山の夢や希望がありました。しかし、戦争により平和が奪われ夢や希望も叶いませんでした。戦争や平和について考えるだけでなく、これから先の未来に向けて自身の夢や希望と向き合う時間にもなれば幸いです。子ども達の夢や希望を叶えるためにも、そして、世界中の子ども達が平和と感じる世界になるためにも、どのような未来になってほしいのかを対馬丸記念館の詩「今を生きているきみへ」が教えてくれます。

作成者の感想

沖縄で生まれ育ち、幼少期から学校で平和学習を受けてきましたが対馬丸について多くを知らないことに気づかされ対馬丸について調べることからスタートしました。

この教材を目にした方にまず伝えたいのは、ぜひとも対馬丸記念館に足を運んでみてください、ということ。対馬丸を語ることにどんな意味があるのかを教えてください。

今回、教材を作成する中で、対馬丸記念館の資料がとても参考になり、これまでとは異なる角度から平和について次世代へと伝える内容に仕上がりました。

小学生から高校生までどなたでも参加できる教材として幅広く活用していただけるよう、クイズも数種類考えてみました。

教材2 「住み続けられる 沖縄を考えよう」

ね ら い：沖縄の大切な心に気づき、歴史から学ぶ

キーワード：沖縄、郷土文化、世界のウチナーンチュ

すすめ方

①導入

私は_____です。(10個書く)

⇒沖縄の好きなところ、残したいところ

②問題の発見

- ・沖縄の好きなところランキングをグループで作って共有

③フォトランゲージ

④構造理解

- ・世界に渡った沖縄移民の歴史
(社会科との連携)

⑤問題解決の探求

- ・うちなーんちゅとは、何だろう？
各自で定義づけ⇒残したいものの危機

⑥提案・発表

自分の好きなものを残しながら、
住み続けられる沖縄である為にできること



授業は、
このテキストを
参考に
(15ページ参照)



作成した背景

沖縄の移民について授業をしようと思ったが、歴史的な事実を伝えるだけの授業では、「移民」を歴史の一部だと認識して、「自分事」として深く考えることができないのではないかと考えた。そこで、自分のアイデンティティと沖縄という土地、文化がどのように繋がっているのかを考える必要があると考えた。自分の好きな沖縄を残していくことが、自分自身を守ることに繋がるかと理解することで、沖縄がこれからも住み続けられる町であってほしいと心から願い、そのための実践意欲を高めることができると考えた。

作成のプロセスと気づき

「うちなーんちゅ」とは何か？という問いの中で、多くの定義があることに気づいた。沖縄に住んでいる人、沖縄にルーツのある人、沖縄を思う人など、それぞれが考える「うちなーんちゅ」という定義の中に、アイデンティティがある。沖縄を感じられるものすべてが、うちなーんちゅを構成する大切なものだ考えると、それらを守って行くことが、住み続けられる沖縄に繋がっていると考えた。

その後の展開や変化

「沖縄の移民」について学ぶことを「歴史」として捉えるのではなく、アイデンティティの確立と、それが文化の継承と深く関わっていることに気づかせたい。文化を守ることが自分らしさを守ることに繋がっていると理解できたとき、「うちなーんちゅ」としての誇りや使命感を持って、住み続けられる沖縄のために自分がすべきことが現実的に見えてくると思う。

作成者の感想

「うちなーんちゅ」と自分で説明しようとする、沖縄という地がなければ、私は何者にもなれないのだと気づかされる。この地を離れることになったとしても、沖縄というこの場所がある限り、「私はうちなーんちゅ」だと言える。だからこそ「住み続けられる場所」であってほしいと心から思うことができる。そんな理解をもとに「住み続けられるまち」を考え、実践していこうとする意欲が高まれば、自分のすべきことが明確になる教材だと思う。歴史を学ぶことは、自分のアイデンティティと出会うことでもあると認識できた。



すすめるうえでのヒント！

「移民」という歴史を伝えることはとても大切なことですが、「教材」を教えることに終始しないように気を付けて欲しいです。「この教材で何を伝えたいのか？」を常に意識して授業づくりを行ってほしいです。また、問題解決探究の問いである「うちなーんちゅ」の定義を自分自身の納得解・最適解として持っておくことが、ヒントになるのではないかと思います。授業前・中・後と考えの変容を授業者も恐れずに楽しみながら、取り組んで欲しいと思います。

執筆者：大城 真紀子（豊見城中・国語科）

教材3 「命の水 ～PFAS(ピーファス)汚染～」

ね ら い：水の大切さを理解して、沖縄の現状を知る

キーワード：水的环境

すすめ方

1. 導入

- ①「水」と聞いて思い浮かぶ言葉をワークシートに記入する
- ②水に関するクイズ（5問）
 - ・地球上で人間が利用できる水の割合はわずかであることや沖縄の水事情について確認する。

2. 問題の発見・把握

写真を観察してタイトルをつける「フォトランゲージ」を通して、沖縄の人々と水との関わりや、米軍基地に起因する水汚染の歴史を知る。



米軍嘉手納飛行場に接収された集落の井戸
1945年5月7日 沖縄県公文書館所蔵

3. 構造理解

新聞記事やドキュメンタリー番組、資料を使って、沖縄や国内外のPFAS汚染の現状を学ぶ。



井戸水が米軍のジェット燃料に汚染された
「燃える井戸」嘉手納村屋良区
1967年11月4日 沖縄県公文書館所蔵

4. ふりかえり

「わたしの気持ち」シートに記入し、グループで話し合う。

作成した背景

沖縄の水がPFAS（有機フッ素化合物）に汚染されている実態を知り、SDGs目標6「安全な水とトイレを世界中に」は自分たちの課題でもあると感じた。PFAS汚染は米軍基地問題であるが、それだけでなく、SDGsや世界の水とつながっている問題として考えられる教材が作りたと思っていた。

作成のプロセスと気づき

平和教育指導者養成講座で、小中学校の先生や NGO のスタッフ、大学生と一緒に教材を作成した。みんな PFAS について新聞やテレビで耳にしたことはあるし、米軍基地問題という認識はあるが、詳しい内容は知らなかった。聞き慣れない化学物質の名前や専門用語も取っつきにくいと感じた。そこで、「水」をキーワードにクイズやフォトランゲージを行い、自分たちにとって水がどのような存在なのかを考え、沖縄では昔から水や井戸を大切にしてきたことや、その水が汚染された歴史を知ることに重点を置くことにした。

PFAS 汚染の現状については優れたドキュメンタリー番組が制作されているため、それを活用してもらうことにした。また、話し合いのなかで、身近な水道水の問題は、生徒にとって非常にショッキングなので、性急に解決策を考えるのではなく、まずは生徒自身がその驚きや不安を受け止める時間が必要だということに一致した。そこで、「わたしの気持ち」のワークシートを使って、生徒が今の気持ちを受け止め、他の生徒と気持ちを共有できるようにした。現場にいる学校の先生と一緒にあったことで、どの科目でどういうテーマなら実践可能かなどのお話が聞けて、とても参考になった。

作成者の感想

沖縄の PFAS の問題は日米地位協定が壁になっており、解決は簡単ではない。しかし、この問題を知るきっかけがあれば、誰もが当事者であることに気づかされると思う。この教材がそのきっかけになることを願っている。

参考文献

- ・ジョン・ミッチェル、小泉昭夫、島袋夏子『永遠の化学物質 水の PFAS 汚染』2020 年、岩波書店
- ・特定非営利活動法人開発教育協会
『開発教育 環境教育教材 日本と世界の水事情 水から広がる学び アクティビティ 20』2014 年

すすめるうえでのヒント！

「水に関するクイズ」例（3 択）

- ①地球全体の水が 100% だとしたら、人が使える水は何 % ?
(答え：0.01%)
- ②人が 1 日に使う水の量はどれくらい?
(答え：2 リットルのペットボトルで 100 本分)
- ③沖縄県で 1 番断水が多かった年は昭和 56 年ですが、1 年のうち断水は何日あったでしょう?
(答え：186 日)
- ④沖縄本島に、飲水に使うためのダムは、現在いくつある?
(答え：11)
- ⑤米軍基地内で使う水は、どうやって送られている?
(答え：基地のあるそれぞれの市町村から送っている)

※沖縄県企業局ホームページの「キッズページ」「水博士認定テスト」などを参考に作成

執筆者：古賀 徳子（沖縄国際大学非常勤講師）



受講者コメント

- ✓毎年平和教育を受けている上で、日本軍が悪いんじゃないかと思うことがありました、けれど日本軍が悪いのではなくて、そうさせる戦争自体が悪いのだと考えさせられました。
- ✓主人の母、そして私たちは、おばーが天国へ旅立ってから18年後に、近所の親戚から話しを聞き真実を知りました。主人の母は泣きながら、知らなかった事を本当に悔やんでおり、生きている時に話し

戦跡フィールドワークを通じた学び in 読谷 (2月 25日)

ガイド：中田耕平さん (読谷村史編集係職員)

詳細は 52 ページへ



ていてくれたら、少しでも心の傷に寄り添えたのにと、『たれば』と『のに』の連続でした。
✓読谷村の平和活動おけるブレないスタンス (教育の一貫性)。戦争 (暴力) の対局である文化 (創造) を軸として、2度と国策の犠牲になってはいけないという強い意志。

沖縄戦から、戦後復興のプロセス
(基地返還～まちづくり)

読谷フィールドワークマップ

監修：中田耕平さん（読谷村史編集室）



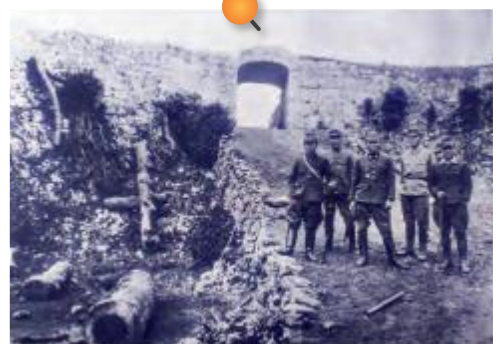
01 座喜味城跡

護佐丸により1420年頃築城。

1943年北（読谷山）飛行場が建設され、座喜味城跡には高射砲部隊配備されていた。戦後は米軍のレーダー基地として接収され1974年に返還。

2000年に「琉球王国のグスクおよび関連遺産群」として世界遺産へ登録。

住所：読谷村字座喜味 708-6



📷 座喜味城跡に駐屯した日本兵



02 ユンタンザミュージアム

1Fでは自然・文化遺産を、2Fでは考古・民俗・自然・沖縄戦について展示を行っており、その中でガマや亀甲墓等のジオラマを通して詳しく学ぶことができる。

参照：<http://www.yuntanza-museum.jp>

住所：読谷村字座喜味 708-6



📷 ミュージアム 沖縄戦部分の展示より
チビチリガマ内部、状況を再現したジオラマ



04 掩体壕

日本軍によって北飛行場に造成されたコンクリート格納庫。現在残っているのは1基のみ。

住所：読谷村字座喜味

お問合せ先：ユンタンザミュージアム

TEL：098-958-3141



📷 1945年4月 米軍が撮影した忠魂碑

03 忠魂碑

読谷山尋常高等小学校敷地内に1935年建立。従軍戦没者を国、天皇のために戦い亡くなった尊い英霊として顕彰し称える碑。県内各地の慰霊碑とはその建立の意味において対照的。

住所：読谷村字座喜味

お問合せ先：ユンタンザミュージアム

TEL：098-958-3141



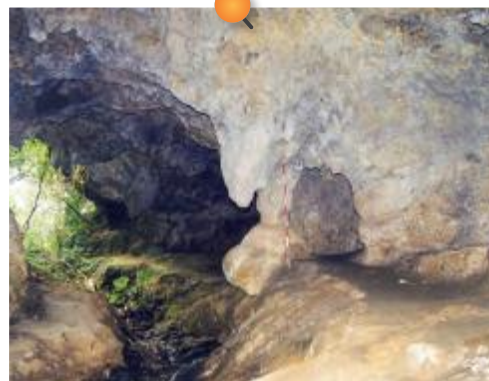
05 チビチリガマ

1945年4月2日米軍上陸の翌日「集団自決」(集団強制死)により避難住民約140人の内83人が亡くなった。犠牲者には多くの幼児が含まれている。

住所：読谷村字波平

お問合せ先：ユンタンザミュージアム

TEL：098-958-3141



06 シムクガマ

沖縄戦時約千人の住民が避難しハワイ移民帰りの比嘉平三氏、比嘉平治氏が主導し米軍へ投降。

米軍の戦車砲によって亡くなった3人以外は皆助かった。

住所：読谷村字波平

お問合せ先：読谷村 波平公民館 (読谷村字波平 61)

TEL：098-958-2229



次へ➡



08 憲法9条の碑

役場駐車場から庁舎玄関に至る門口横に位置。軍隊の非保持、不戦が規定される憲法9条の条文が刻まれており、そこからは、当時の人口の4分の1ともいわれる、多くの一般住民が亡くなった沖縄戦を二度と繰り返してはならないという決意、強い思いが感じ取れる。

沖縄戦とそれに続く米軍基地化による苦難を強いられた読谷村のびびとにとって、この平和憲法こそ、実践すべき理念であった。

住所：読谷村字座喜味 2901（読谷村役場）



07 読谷村役場

現在の役場庁舎は、1997年当時まだ米軍基地だった読谷補助飛行場内に建設された。2006年に同飛行場が全面返還され、役場周辺を村民センター地区と位置づけ整備が進む。米軍基地を返還に導いてきた読谷村の村づくりを象徴する施設で、役場敷地内には平和について思いをめぐらすことができる複数のモニュメントも位置する。

住所：読谷村字座喜味 2901



09 屋良朝苗像

初めて公選によって選出された沖縄県知事である屋良朝苗氏の功績を顕彰する銅像。同氏は戦前から教員を務め、戦地に教え子を送ってしまった反省から、戦後沖縄の教育に尽力。政治家に転身後は、平和な沖縄の実現を求め、日本復帰を主導した。読谷村瀬名波出身。

住所：読谷村字座喜味 2901（読谷村役場）

読谷村の戦跡やそれに類する場所をめぐってみると戦中から戦後そして現在に至る一連の過程がよくわかります。

沖縄戦における日本軍による飛行場建設をはじめとした陣地構築を起点として、一般住民を巻き込んだ地上戦の実相と明暗、戦後米軍基地接収とそれによる苦難、そしてそこからの脱却を目指し米軍基地返還へと導いていった平和運動の実践を学ぶことができるのが、読谷村での平和学習の最大の特徴です。